

議事録

会議名	令和6年度第1回久留米市子ども・子育て会議 乳幼児期・子育て部会
日時	令和6年7月30日(火) 19:00
場所	久留米市本庁舎3階 303会議室
出席者	麻生委員、足立委員(オンライン出席)、今村委員、江崎委員、 椛島委員、津村委員、西野委員、村井委員 8名
欠席者	関委員、早川委員 2名
傍聴者	1名
次第	1 開会 2 委嘱状交付 3 委員紹介 4 久留米市子ども・子育て会議について 5 部会長・副部会長の選出 6 議事 (1) 久留米市の子ども・子育ての状況と取組について 7 その他 (1) 今後のスケジュールについて (2) こども・若者ワークショップについて 8 閉会
	1 開会 久留米市子ども・子育て会議条例第9条第4項の規定に基づき、会議成立
	2 委嘱状交付
	3 委員紹介
	4 久留米市子ども・子育て会議について <資料2「久留米市子ども・子育て会議について」事務局説明>
	5 部会長・副部会長の選出 部会長に津村委員、副部会長に西野委員を選出
委員	6 議事 (1) 久留米市の子ども・子育ての状況と取組について <資料3「久留米市の子ども・子育ての状況と取組について」事務局説明> <質疑応答> 資料の6ページにある、「子育てと仕事の両立の促進」の項目について、企業向けにセミナーが行われているとのことだが、これは子ども未来部独自の取り組みなのか、商工観光労働部との共同事業なのかを教えてほしい。

事務局	ワーク・ライフ・バランスの促進のためのセミナーや、DX（デジタルトランスフォーメーション）に関する人材育成講座は、労政課で実施した事業である。
委員	主な取り組みには他の担当部署が実施した内容も含まれていることが理解できた。 同じく 6 ページにおいて、基本目標 2 の表（1）に示された成果指数の現状値、「子育て中の方が地域で交流できる場所の数」に関して 2 点質問がある。 まず、子育て中の方々が気軽に行ける場所について、子育て中の方はこの情報を知っているのか、周知はどのように行われているのかを教えてほしい。 それと、目標値 58 ヶ所に対し、令和 5 年の現状数 42 ヶ所とあり、具体的にどのようなところ（保育園、認定子ども園、幼稚園、コミュニティなど）にあるのかを教えてほしい。
事務局	子育て中の方が地域で交流できる場所は、地域子育て支援拠点施設といい、例えば子育て支援センター、くるるん、児童センター、校区サロンなどを含む。 周知については、妊娠届の際にチラシを同封したり、ホームページで情報発信を行ったりしている。ただし、校区サロンは全ての校区に設置されていないため、その分目標に達していない。
委員	調べれば解決するかもしれないが、DX デジタルトランスフォーメーションの意味を教えてほしい。
事務局	デジタルトランスフォーメーションとは、デジタル技術の導入により、社会や生活のスタイルが変化することを意味する。このような DX の推進に取り組んだということになる。
委員	先ほどの質問と重なるが、6 ページ（1）の 2 段目において、子育て中の方が交流できる場所の数が 42 ヶ所のままで増加していない理由について、コロナ禍も影響していると思うが、他に何か原因があるのかを尋ねたい。
事務局	交流できる場所が増えていない原因としては、校区サロンが主任児童委員や地元のボランティアによって自主的に運営されているため、市からは補助金が出されるが、取り組みができていない校区にはサロンが開催されていない状況である。市としては、未実施の校区の方々を実施している校区の交流セミナーに呼び、できるだけすべての校区で取り組んでもらえるよう進めている。

委員	<意見> いろいろ説明があった中で、行政の取組みに加えて、今後どのような取り組みが必要か意見を聞きたい。
委員	リバー久留米 5 階にある子育て交流プラザ「くるるん」は、乳幼児が集まる場所である。子育て中の人交流できる場所であり、くるるんでは月 2 回のみの休みで、交流できる場としては非常に適している場所だと思う。おそらく他の場所では開いていない日や時間が多いと思う。くるるんと児童センターのみ開所日が多く、乳幼児に特化したサービスを提供しているため、安心できる居場所となり、利用者は多くなっている。一時預かり事業もあるので、これも利用者が多く、引っ越してきたばかりの方や、実家の両親も働き近くに頼る人がいない方も増えている。仕事をしているが、土曜日は保育園が預かってくれないという方や自分の用事を済ませるために、一時預かりを利用している方もいる。 また、お母さんたちがどうやったら外に出られるか、自分たちの居場所として来てくれるかを試行錯誤しながら足を運んでもらえるきっかけづくりを行っている。プレパママセミナーも独自に開催しているが、そのメリットは、妊娠中も利用できることである。急に社会から断絶される不安に対して、様々な情報が必要だと感じている。SNS 等から得られる情報も多いが、情報過多の中で何をすれば良いのか不安を抱える保護者も増えている。だから、いろいろな交流の場や出かける場があると思うが、どういう場かを知ってもらい、私たちも、その地域でも、この方がいるから安心して行っていよいよ、など横の情報を皆さんと共有できると、もう少しスムーズにできるかを感じる。
委員	久留米男女平等推進ネットワークは、男女が平等な社会になるよう、いろいろな団体が集まったネットワーク。子どもを男女平等な意識で育てることはもちろん、周囲の大人や地域や社会がまだまだ男女平等ではないと感じている。そのあたりを考えながら力になればと思っている。 結婚に関してのアンケートで、若い男女が結婚希望を持たない理由として、男性は経済的な不安があるということは、男性がまだ家族を養わないといけないと感じる人が多いと思う。女性は結婚生活に大変というイメージがある。母親を見て、家族の世話や介護などで大変な思いをしていると感じているということは、男女平等意識は高くなっているが、実際のところ家庭に入ると男女平等ではない役割分業が残っているのではないかと。そこが結婚が遠のいている理由でもあるのかと思う。 出生率を上げる。出産できるのは女性だけなので、その女性が久留米で定住して働きたいと思うような社会づくりが重要。女性の結婚、出産は本人の自由だが、久留米で女性を増やしていく、学業のために久留米を出ても戻ってきもらえるような魅力ある働き甲斐のある久留米を目指していく必要があると思う。

委員	お母さん大学筑後支局の紹介と自らの経験を踏まえた意見を述べる。今日は 7 月 30 日であり、お母さん大学の記念日として設定している。この日には、日々のお母さん業務に乾杯するイベントが横浜本部で開催される。今日は家の事情で参加できなかったが、私たち筑後支局は合川町に支店があり、そこでお母さんや子どもたちと一緒にイベントを行った。私たちが広めたいのは、孤立した子育てをなくすということ。この紙面は横浜の本部が主に作成しているが、福岡支局も独自の活動を行っている。お母さんたちの日々の子育てが、他の誰かの子育てに繋がり、半径 3 メートル以内の小さな幸せでも繋がっていったらと考えている。 7 月号の新聞を持参しているが、これを様々な施設に置いて広めている。お母さんたちに手に取ってもらえるよう、PR 活動を行っている。なぜこの活動をしているのかというと、一生懸命なあまり、自分が何をしているのか分からなくなることもある。お母さんたちが子育てに不安を感じる中で、自分のしていることが分からなくなることもある。子どもを育てることは未来を育てる事業であり、どんな偉人も母親から生まれる。そしてお父さんも、これまで築いてきた先祖の存在がある。皆がそのことを忘れて、日々の子育てに振り回されて悲しくなることもある。この活動を通じて、現在の状況は大変だが、未来を育てることの大切さを広めていきたい。久留米市にお願いしたいのは、こうした視点を持って子育ての計画を立てていただきたいということである。市民と対応するとき、このような事業計画を立てる時は、未来を育てるという意識を持っていただければと思う。その結果、事業計画や具体的な言葉かけが変わってくるのではないかと考える。すぐに変化することは難しいが、久留米市の取り組みが面白いと感じられるよう、未来をつくっているという素晴らしいことをしているという目線をもって、目の前のことに対応してもらえればと思う。
委員	未就学児の養育者として参加している。私は久留米市で生まれ育ち、結婚・子育てをしており、久留米が大好きで離れたくないと思っている。久留米で育ってきたが、こうした内容が決まるまでの裏側を見たことがなかったので、多くの人々が尽力して多様なものを作っていることを知り、非常に嬉しく思う。 私は 10 年近く専業主婦として子育てをしており、その中で地域の子育て支援センターや校区サロンなどを頻繁に利用しているが、新規参加者が少ないと感じる。常連ばかりが集まっている印象を受け、一部の人たちが利用しているように思える。実際に孤立していたり子育てに疲れているお母さんたちは、自分の身支度さえも難しいという状況にあると思う。支援センターには賑やかなお母さんたちが集まっている一方で、支援が必要でない方たちが集まっているような気がする。 コロナ禍の人数制限の時、自分が利用することで、必要な人が行けなくなるのではないかと行くのをためらうときもあった。子どもの笑顔プランというタイトルは素晴らしいが、子どもが笑顔になるためには、養育者自身が笑顔でなければ

	ならない。養育者に届く支援が求められると感じる。産後の保健師からの支援情報は大切であるが、LINEなどで送られてくる情報も利用しながら、今後も続けてほしいと思う。 地域の支援センターだけでなく、生涯学習センターで講座が行われることも多いが、託児が提供されない地域もあり、参加したくても行けない場合がある。せっかく講座を実施するなら、いろいろな地域に託児を配置してほしい。 また、子ども成長したに従って行ける場所が減り、この暑い時期に外で遊ばせることも難しい。年齢層の幅がない施設が増えればありがたい。
委員	ツインズクラブは、双子及び三つ子の育児を妊娠中から支え続ける団体である。久留米市では、九州で初めて双子や三つ子の育児経験者が保健師と共に新生児訪問を行うシステムが採用され、6年が経過した。22年の活動を通じて、15年にわたり市にお願いした。国の予算がつく先行事例として、久留米市の取り組みに感謝している。妊娠期間中に母子手帳を受け取り、必要なサポートを受けられる体制が整っていることに感謝している。 次の世代につなぐには、活動している人たちの待遇・処遇も良くなないと、自分は頑張れるが、皆に頑張るとは言いにくいのが現状。今は、仲間も増え、空き時間を工夫し手伝ってもらい、何とか成り立っているが、もう少し予算をもらえるとありがたい。 また、子育て応援給付金が支給されているが、ぜひクーポン券などの形で利用できる施策も考慮してもらえるとありがたい。エンゼル応援隊の無料券やくるるん・児童センターの一時預かり券、ファミサポの利用券など、無料の券だと預けてみようという気になるかもしれない。クーポンで子育て支援サービスを使うお母さんのきっかけづくりになる。加えて、アウトリーチ支援を充実させ、家庭訪問なども行って、支援が届かない状況を取り除けるようにできればと思う。 久留米市は、今までも頑張っているが、もう一步頑張ると、みんな安心して子育てしやすい、多胎児にやさしいまちになる。多胎児にやさしいまちは、一般の人たち誰にでもやさしいと思う。 働く側の待遇と、お母さんたちの使い勝手の良いサービスをお願いしたい。
委員	具体的で分かりやすい説明を感謝する。私の孫も三つ子であり、普段から大変な状況にある。子どもが病気の時には、病児保育の充実や延長保育を行うことが不可欠であると感じている。久留米市は素晴らしい活動を行っているが、窓口が多く実際に説明を理解することが難しい場合もある。情報を集約できることで、市民もアクセスしやすくなるのではないかと考える。
委員	私は社会保険労務士である。6ページの資料について多くの発言があったが、主な取り組みの中にワーク・ライフ・バランスがあり、労政課との共同事業であ

	ると説明があった。私も仕事で役員をしている時に企業に社会保険労務士を派遣してもらった経験がある。妊娠や育児に関する制度を詳しく説明することが求められているため、その助けになるような活動ができればと考えている。特に中小企業においては、妊娠や育児に関しての知識は不足しているため、より広く情報を提供する必要がある。 社会保険労務士会支部があり、派遣等できるので、妊娠中・育児中でも休みが取れて、安心して久留米市民として働ける、暮らしていけるというサポートを使ってもらいたい。
委員	私も社労士事務所で働いている。国の制度として、家事代行を利用した際に負担が軽減される仕組みがとお客さんから言われ知った。この制度を実際利用することで、育児と仕事を両立させる助けになると思う。働くお母さんや父親に向けて、利用しやすい情報発信ができることを望んでいる。
委員	大変参考になった。時間はまだ少し残っているので、他に意見を付け加えたい方はいないか。 (意見なし)。 事務局からの補足説明はあるか？
事務局	本日の意見は、今後の計画策定に参考する。
	7 その他(1) 今後のスケジュールについて <資料4「今後のスケジュール(予定)」について事務局説明> 意見なし
	(2) こども・若者ワークショップについて <資料5「こども・若者ワークショップ」について事務局説明> 意見なし
	8 閉会